

エンジ・建設・製造トラック

EG-1 建設業におけるPM実践力の構築  
13:10 ~「OJTマップ」の活用による実施事例~

株式会社竹中工務店 大阪本店  
品質監理部長 佐藤 光宏

企業活動を継続していく上で、人材育成は最重要課題である。スピードと成果を求められる現在の社会環境下においては、単一的な仕事の質・量やスピードのみならず、輻輳する仕事を同時に遂行していくスキルも求められる。

このような背景からPMの必要性が高まっているが、従来型の部門任せのOJTによる人材育成では知識や知恵の伝承が不効率である上、PMの実践力の向上にも繋がりにくい。

今回の事例は建設業のものであるが、習得すべき事項を時間軸に表した「OJTマップ」を活用することにより、本人と上長のコミュニケーションを介したラーニング・カルチャーを共通認識として形成することが、効果的なOJTに繋がるものとして報告する。

【講師略歴】

1978年竹中工務店に入社。以降現場における施工管理、工事計画を担当し、2002年建築技術部長、2006年品質監理部長を経て現在にいたる。

EG-2 鉄道車両設計業務におけるプロジェクト管理の課題と対応策  
14:30

川崎重工業株式会社 車両カンパニー 技術本部  
プロジェクト設計部 第一プロジェクト設計課 林田 昌三

鉄道車両の設計業務は、特に輸出車両においてプロジェクトの期間が長く、また対外的な調整要素も多い上に、プロジェクトの件数自体も増加している。このような状況の下、当社ではかつて業務負担調整機能の不足、共通のプロジェクトの進捗管理が無い、設計変更の不備等、プロジェクト遂行上の問題を抱えていたため、プロジェクトの進捗状況が見える形にし、売上増に対応できる業務管理体制を構築することを目的として、様々な仕組みを導入してきた。

現在は仕組みの運用において発生した問題点に対し、種々試行錯誤しながら改善を行っている。

ここでは、当社が構築してきた仕組みの概要と、問題点及び対応策についてその一部を紹介する。

【講師略歴】1983年4月 川崎重工業(株) 船舶事業本部(現:川崎造船(株)) 入社。一般船舶の電装設計業務に従事。

2001年4月 車両カンパニーへ異動。JR在来線、公営・私鉄関係車両設計業務に従事。2004年4月から現職。主として国内プロジェクトの設計取り纏め業務に従事。

EG-3 マネジメント改革の工程表  
15:50 ~CCPMのマルチプロジェクトマネジメント成功の極意~

日本TOC推進協議会  
理事 岸良 裕司

ますます複雑化する現代のプロジェクト現場。経営現場はマルチプロジェクトが現実。この現実シンプルかつパワフルな全体最適のソリューションを提供しているTOCクリティカルチェーン(CCPM)について、マルチプロジェクトマネジメントに特化し、議論する。なぜ、マルチプロジェクトが混乱するのか? 複雑な現状をいかにシンプルに取り扱うか? なぜCCPMがマルチプロジェクトにおいて劇的な効果があるのか? 従来とのPMとの違いは何か?

そして、従来のPMとの相乗効果を作るインプレメンテーションの手法を紹介しながら、精神論に偏りがちな人的マネジメントに実践的かつわかりやすいロジカルなマルチプロジェクトマネジメント手法を紹介する。

【講師略歴】1959年生まれ。(株)ピーニング取締役。日本TOC推進協議会理事。84年京セラ(株)に入社。主にハイテク技術開発のマーケティング強化に取り組む。2003年、ヘッドハンティングされ、土木積算業界のソフトでトップシェアを誇る(株)ビーイングに入社。その活動は社内のみならず、様々な分野で目覚ましい成果をあげている。

ヒューマンリソース・組織トラック

HR-1 理想のPMO構築に向けて  
13:10 ~PMAJ関西PMO研究会成果発表(第1フェーズ)~

PMAJ 関西 PMO 研究会  
主査 橋本 欽司

【狙い】PMOの役割を理解しPMO構築企画書を作成することを目的としてPMAJ関西で発足したPMO研究会の研究成果の発表である。研究会では、第1フェーズとして「プロジェクトマネジメント・オフィス・ツールキット」(ジョリオン・ハローズ著)をメンバー全員で分担し、月例会での内容討議と①内容は理解できたか②ディスカッションに満足したかで評価・所見を作成し、第2フェーズ「理想のPMO構築」の足がかりとした。本講演では、評価結果と本活動より創出された新たな知見についての紹介を行う。

【内容】①PMO研究会の活動計画 ②書籍内容の紹介 ③評価結果と新たな知見 ④今後の予定

【受講をお勧めする方】①PMO構築に興味のある方 ②ITマネジャー ③PM

【講師略歴】1984年~ 国内電機メーカーの研究開発部門でソフトウェア関連の開発業務を担当。1994年~ 製造事業場にて商品組込ソフトウェア開発・プロジェクトリーダーを担当。2005年 PMP取得。2006年~PMAJ関西PMO研究会のPMを担当。講演実績「ITPM教科書を読む」(PMAJ関西例会、2006年7月)

HR-2 個の自律による未成熟なプロジェクト組織の活性化事例 ~PMOアプローチの実践~  
14:30

オフィスA|ビジネス・プランニング/(有)ピーエム情報技術研究所  
コンサルタント 山崎 正敏

組織が未成熟なプロジェクトに対して、プロジェクトマネジメント・プロセスの導入、プロジェクトマネジャーやリーダーの言動に対するアドバイスなど、プロジェクト組織を活性化するために、コンサルタントである講演者がPMOとして活動してきた事例を紹介する。

特に、進捗管理、リスク・課題管理、コミュニケーションおよび変更管理を確実に実行するために、プロジェクトマネジャー、リーダー、さらにはメンバーひとり一人に対して、いかに接して、納得させて、行動に移させたのかという人間系のアプローチについて、効果があったこと、苦勞したことなどに焦点を当て説明する。併せて、マネジメント力をつけるための個人と組織の関係についても述べる。

【講師略歴】経営、PMのコンサルティング・研修を中心に活動中。国内外のプラント建設、情報システム開発、経営改革プロジェクトのマネジメントを経験。日本プロジェクトマネジメント協会理事・PMAJ関西代表。PMP、中小企業診断士、ITコーディネータ。(株)神戸製鋼所、コベルシステム(株)/大阪大学工学部。

HR-3 チームと個人を幸せに導くプロジェクトマネジメント  
15:50 ~プロジェクトを進化させるためのプロジェクトマネジャーの心得と行動~

有限会社ウィンアンドウィン  
代表取締役 近藤 哲生

【セミナーの狙い】プロジェクトが失敗するとチームや組織が崩壊し、あるいは失敗街道を進む中で個人の犠牲者が出る。プロジェクトを見事に成功させるには、顧客やスポンサー、リーダー、メンバーを含む関係者全員でビジョンを共有し、モチベーションを高め合うことが最も重要である。そのためには、全員が納得する合理的な計画作りや、全員で自主自律的に行う「高速回転するプロジェクト運営」が必要になる。合理的で高速回転し進化するプロジェクトを運営するためのヒントや気づきを提供する。

【受講をお勧めする方】これからリーダーやマネジャーになる方、なかなか成功することが出来ないPM経験者、失敗の多い組織を変革しようと考えている方。

【講師略歴】1946年愛媛県生まれ。日立製作所に入社。情報・通信系システムの開発に従事。苦戦したプロジェクトの経験から、「成功するPMの確立」に取り組んでいる。2002年ウィンアンドウィンを設立。著書「実用企業小説 プロジェクトマネジメント」、「はじめてのプロジェクトマネジメント」共に日本経済新聞社刊。